

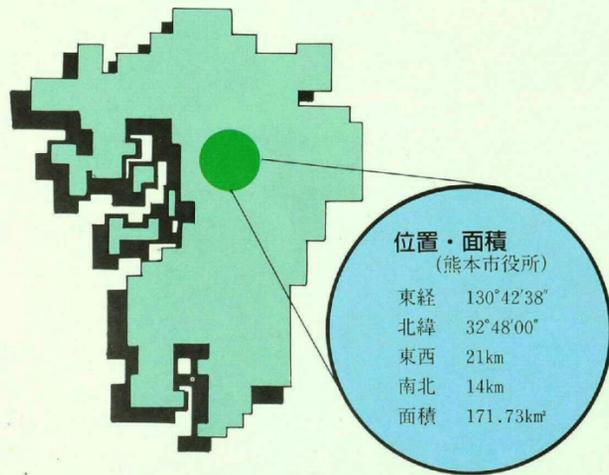
Human City くまもと 地域と気象

本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

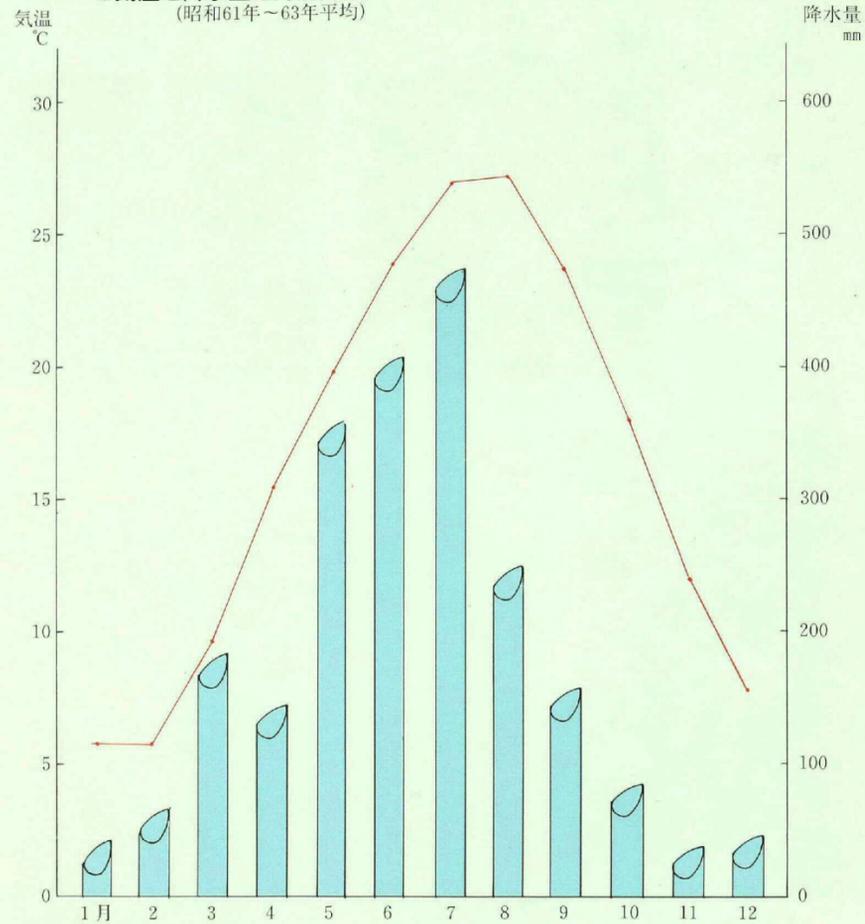
この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を發する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。

気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の夕方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

気温は年平均16.5℃前後で、昭和63年の最高気温は8月の34.9℃、最低気温が2月の-4.5℃となっています。年間降水量は約2,204mmで、4月～9月の半年間に8割以上の降水量があります。また、風向きは春から夏にかけて西南西の風が強く、秋から冬にかけては西北西に変わり、風速は1年を通して2m前後のゆるやかな風が吹いています。

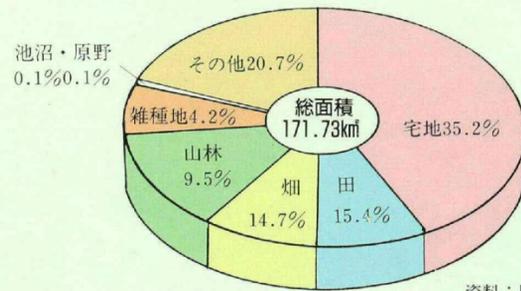


●気温と降水量の月別変化
(昭和61年～63年平均)



資料：熊本地方気象台

●地目別土地面積(平成元年1月1日現在)



資料：固定資産概要調査

Human City くまもと 人口

明治22年、市制施行当時42,725人(M.22.12.31現在)であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を超え、平成元年10月1日現在では575,252人(204,081世帯)になっています。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は2.82人となっています。

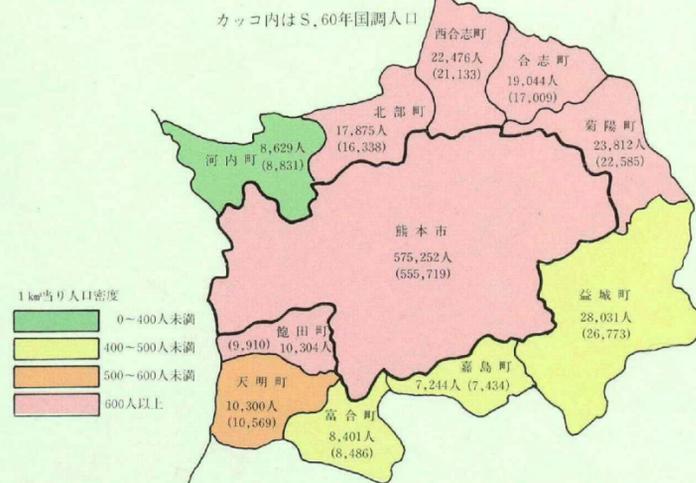
熊本市の人口を昭和60年の国勢調査でみると人口555,719人で熊本県総人口の30.9%を占め、全国で16番目、九州では福岡市、北九州市に次ぎ3番目の順位になっています。

また、55年国勢調査と比べると30,057人、5.7%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

さらに年齢3区別にみると、0～14歳の年少人口が21.5%、15～64歳の生産年齢人口が68.7%、65歳以上の老年人口が9.9%となっており、55年より年少人口の割合が1.0ポイント低下したのに対し、老年人口が1.1ポイント上昇するなど、高齢化が進みつつあります。

また、人口の地域分布では、およそ東部に23万人、北部に11万人、中央部に8万人、南部に7万人、西部に6万4千人となっています。この中で、中央部だけ

●熊本市圏の人口分布図
(平成元年10月1日現在)



が人口の減少が続いています。

なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、昭和60年では、第一工業高校運動場やや東寄りに移動し、相変わらず東部方面の人口が増加していることを示しています。

都市圏人口

本市と周辺10町からなる熊本市圏の人口は、平成元年10月1日現在 731,368人(247,052世帯)で熊本県総人口の39.6%を占めています。人口増加率は、熊本市圏が0.8%、周辺10町が1.1%の増加

推移しています。

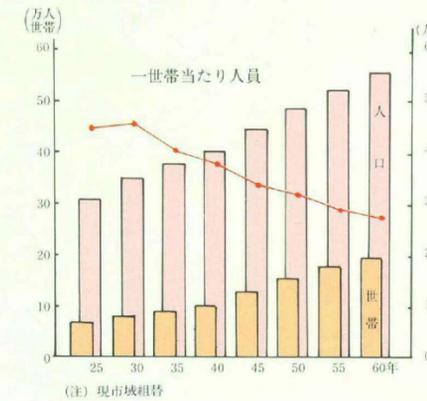
都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前後の増加で、ほぼ一定していますが、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっています。

昭和45年から60年までの15年間の都市圏人口の増加数は約15万1千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均6千人から7千人の増加を続けています。

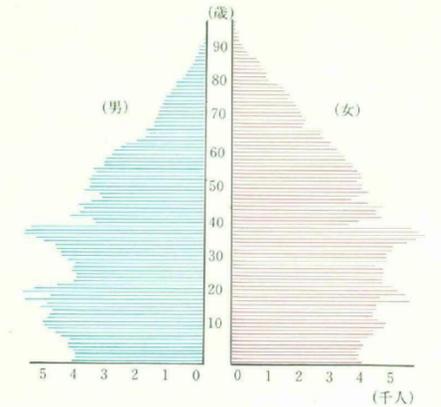




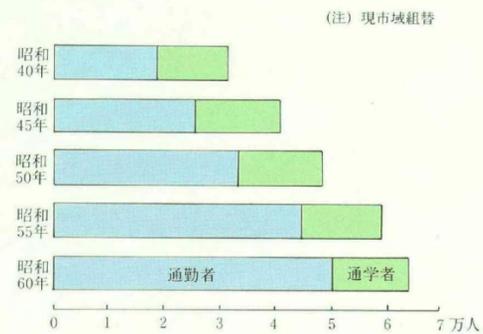
人口・世帯数の推移
(国勢調査)



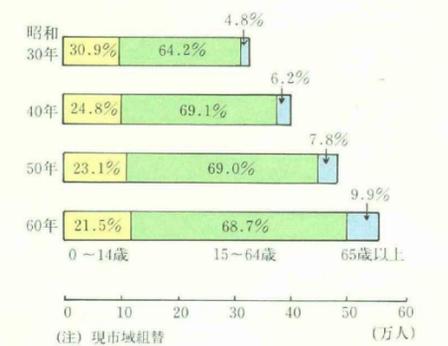
年齢別人口構成 (60年国勢調査)



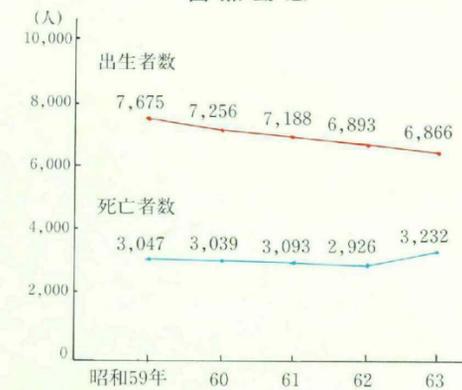
流入人口の推移 (国勢調査)



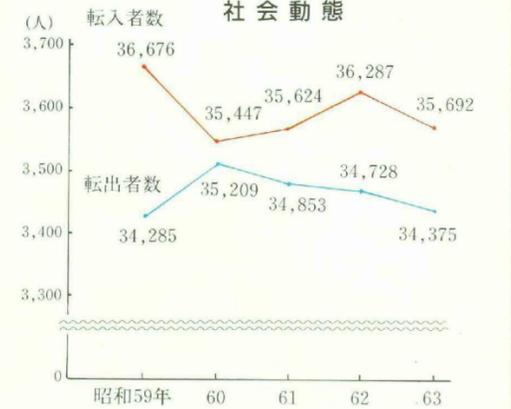
人口の年齢(3区分)構成推移 (国勢調査)



自然動態



社会動態





ふれあい・魅力・活力
くまもと100
熊本市制100周年1889-1989

100th

100周年
くまもとが 熱く熱く
人と人が出会った

市制施行100周年は、100歳の誕生を祝うとともに、連続と続く熊本の心を再認識しながら、21世紀への新たな飛躍を目指そうと「くまもと100—ふれあい・魅力・活力」をテーマに、様々な“彩り”の記念の行事・制作が展開されました。

また未来市民へのすばらしい資産となる記念事業も着々と取り組まれています。

記念行事「熊本百彩」

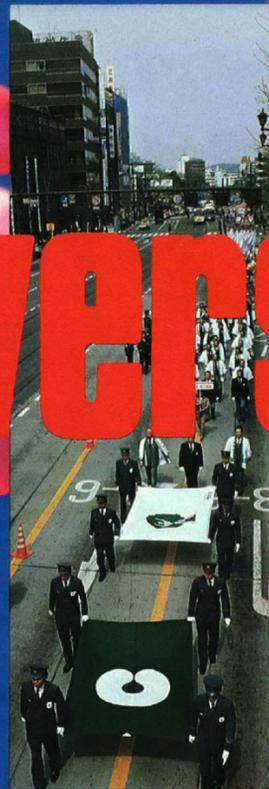
市制100周年記念行事「熊本百彩」は、春・みどりの祭典、夏・火と光のカーニバル、秋・お城ページェントと銘打ち、市民の共感と参加のもと様々なイベントが繰り広げられました。

anniversary

燃えた年。
年。



開幕祝典



オープニングパレード



オープニングパレード



熊本100年のあゆみ展



フラワーフェスティバル



子供議会

100th Anniversary
Spring

春・みどりの祭典

—熊本の魅力の再発見—

桜の花が咲きほこる4月1日、80団体・約3,800人が華やかに市中をパレードした後、二の丸広場の開幕祝典会場では、市制100周年記念制作のファンファーレが披露されると、7月にわたる「熊本百彩」の開幕が高らかに宣言されました。

クライマックスでは、3人のスカイダイバーが友好都市の桂林・サンアントニオ・ハイデルベルグの3市長からのメッセージを持って1,800mの上空から会場に舞い降り、祝典に彩りを添えました。

4月から5月にかけてはこのほか、「ふれあいウォーク」「くまもと100年のあゆみ展」熊本市民の“命の水”をいつまでも大切にしようとして「水源涵養林記念植樹祭」「くまもとグルメフェア」「フラワーフェスティバル」「こども一日議会」「チビッコゴーフェスティバル」などが催されました。

なかでも北熊本の坪井川緑地 9.7ヘクタールで4月23日から5月7日まで開かれた「フラワーフェスティバル」は、会場に「花の広場」「コミュニケーション広場」「イベント広場」「遊びの広場」がもうけられ、ガザニア、ペゴニア、キンセンカ、パンジー、ペチュニアなど10数種類70万本の草花が咲きほこって入場者の目をうばいました。

4つの広場では連日、さまざまな催し物があり、50人乗りのミニSLも「遊びの広場」に登場して人気をよびました。

SUMMER

100th Anniversary



金縷猴

夏・火と光のカーニバル —熊本の魅力の創造—

夏は、8月5日から10日まで「江津湖まつり」、また8月11日から13日まで恒例の「火の国まつり」と、熊本の夏の9日間を“火と光”で華やかにつづりました。

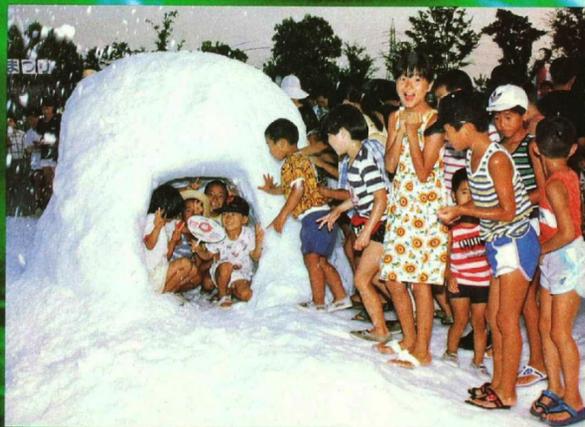
江津湖まつりのメイン会場となった都市緑化植物園では、真夏日に雪をふらせたり、大道芸やステージイベントに一日中歓声があがっていました。

なかでも江津湖畔で繰り広げられたレーザーショーは訪れた人々を幻想的な雰囲気に取り込み、夏の夜の一大スペクタクルとして人気を博しました。

第12回を数える火の国まつりも、市制100周年ということで一段とエネルギーあふれる“まつり”となり、サンアントニオ市から市民友好の翼で来熊したマリアッチが参加するなど国際性も豊かでした。

熊本動物園では、孫悟空のモデルといわれ中国三大珍獣のひとつ「金縷猴」が中国側の好意で8月1日から3ヶ月にわたって一般公開され、期間中市内外から218万人もの観客を集め、一躍九州の子供たちの人気者となり、日中親善に一役買いました。

7月から8月にかけてはこのほか、夢の乗り物やからくり人形などを展示した「こども科学展」、市民の多彩な芸能が披露された「市民芸能文化祭」などの行事も催されました。



江津湖まつり



熊本市制100周年記念式典



熊本城フェスティバル



秋・お城ページェント —熊本の魅力の未来発信—

10月1日市民会館大ホールでは、友好都市の桂林・サンアントニオ・ハイデルベルクの3市長参列のもと、市制100周年記念式典が挙行政され、先人の功績に感謝し、21世紀への飛躍を誓いました。

このとき市制100周年の記念として制作された記念映像と交響詩も披露されました。

翌10月2日は、歴史と伝統ある友好都市の3市並びに大阪、姫路、熊本の各市が集まり新たな都市政策のあり方を考えようと「歴史都市サミット」が開催されました。

また市民会館大ホールの「国際交流の夕べ」では、友好都市3市と熊本の伝統芸能が披露され、親善をさらに深めました。

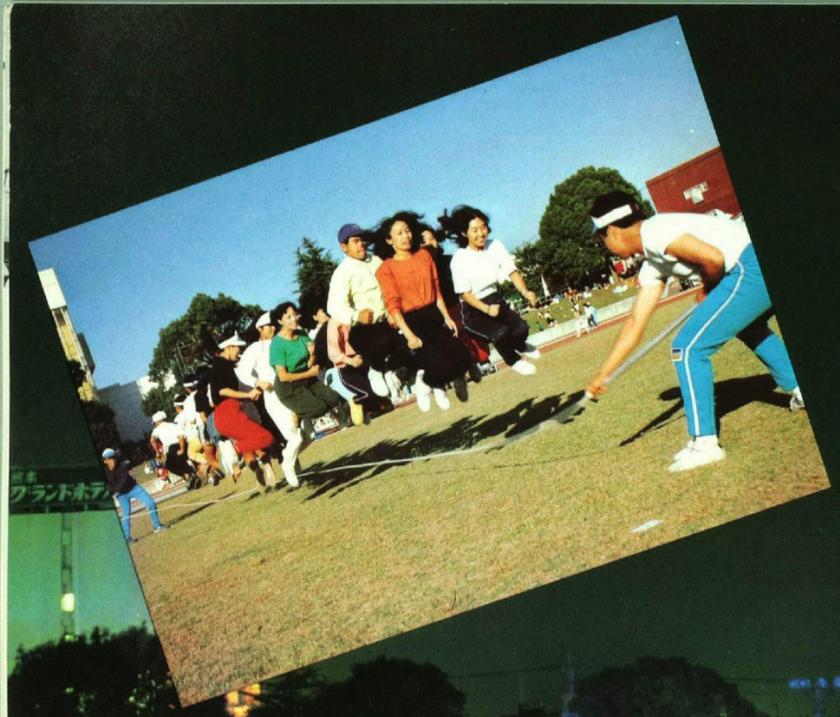
熊本城本丸では、能・神楽などの上演や城下町再現、二の丸広場では宗次郎コンサートなどのステージイベントにグルメ宴遊会、長堀前では日本一長いジグソーパズルなど、熊本城をいっぱいに使った「熊本城フェスティバル」は、9月29日から10月1日の3日間、大勢の観客を集めました。

そのほか秋は、「市民美術展」や民間団体等の関連イベントがめじろ押しでした。

Autumn

100th Anniversary

宇土やぐら



市民ふれあいオリンピック

10月29日、水前寺競技場では、昼間、家族や各校区の代表が「市民ふれあいオリンピック」でさわやかな汗を流した後、夕刻高校生によるマスゲームや婦人団体による総踊り、レーザーショーなどで華やかに「グランドフィナーレ」が開催され、7ヶ月間にわたり繰り広げられてきた市民総参加の「熊本百彩」の最後を盛大に締めくくりました。



グランドフィナーレ

市制100周年記念行事一覧

- 主催イベント
- オープニングフェスティバル
 - オープニングパレード(4月1日・水道町～電車通り～辛島町～市民会館前).....約50,000人
 - 開幕祝典(4月1日・熊本城二の丸広場).....20,000人
 - ふれあいレセプション
 - ①ステージアトラクション(4月1日・熊本城二の丸広場).....(4/1・含む祝典)50,000人
 - ②くまもと飲み市の市・食の市(4月2日・熊本城二の丸広場).....(4/1)50,000人
 - ④ふれあいウォーク(4月2日・二の丸～市内一円～二の丸).....3,500人
 - ⑤くまもと100年のあゆみ展(4月2日～9日・上通～下通～新市街).....2,000人
 - 水源涵養林記念植樹祭(4月16日・大津町真木).....476,500人
 - フラワーフェスティバル(4月23日～5月7日・北熊本坪井川緑地).....476,500人
 - こどもイベント
 - (1)こども一日議会(5月2日・市民会館).....1,750人
 - (2)ちびっこゴーゴーフェスティバル(5月5日・動物園).....21,619人
 - くまもとグルメフェア
 - グルメ会議(6月8日・鶴屋7階ホール).....550人
 - こども科学展(7月25日～30日・熊本博物館).....67,351人
 - ニートハオ金縁祭(8月1日～10月31日・動物園).....2,180,000人
 - 江津湖まつり(8月5日～10日・上江津湖及び都市緑化植物園).....274,600人
 - 市民芸術文化祭(8月6日・市民会館).....2,000人
 - 火の国まつり(8月11日～13日・市内一円).....950,000人
 - 熊本城フェスティバル(9月29日～10月1日・熊本城内及び二の丸広場).....200,000人
 - 記念式典(10月1日・市民会館).....1,800人
 - 歴史都市サミット(10月2日・ホテルキャッスル).....600人
 - 国際交流の夕べ(10月2日・市民会館大ホール).....2,000人
 - 中九州都市サミット(10月18日～19日・ニュースカイホテル).....100人
 - 市民美術展(10月21日～25日・総合体育館青年会館).....4,702人
 - 市民ふれあいオリンピック(10月29日水前寺競技場).....3,000人
 - グランドフィナーレ(10月29日水前寺競技場).....18,000人
 - 関連イベント
 - くまもと21世紀博覧会(10回)(3月13日～12月1日、各1回1日・産業文化会館、鶴屋7階ホール、郵便貯金会館).....のべ4,650人
 - 社会人野球招待熊本大会(4月1日～2日・藤崎台球場).....3,634人
 - 文芸春秋講演会(4月8日・産業文化会館).....700人
 - 招待ラグビーフットボール大会(5月14日・水前寺競技場).....6,000人
 - 国際少年サッカーフェスティバル(8月16日～18日・水前寺競技場外).....4,255人
 - レーニングラードフィルハーモニー交響楽団公演(10月15日・市民会館大ホール).....1,800人
 - 日本のうたふるさと(10月22日・市民会館大ホール).....1,800人



グランドフィナーレ

記念制作
市制100周年の記念制作は、熊本の豊かな自然、伝統文化などをたしかめあい、100歳の誕生を祝うとともに、さらに新しいアイデンティティーをつくり育むため制作しました。
1. シンボルマーク・マスコットマーク
2. 市民の歌「光るグリーンシティ」
3. ファンファーレ
4. 交響詩「熊本賛歌」～くす若葉～
5. 「熊本百彩」映像記録
6. 記念映像「ヒューマンシティくまもと」
7. 目でみる100年史「熊本歴史と魅力」
8. 新熊本市史の編纂

記念事業・記念制度
熊本市の新たな飛躍発展の基盤となる市制100周年の記念事業として、8つの事業の推進と1つの新制度を創設しました。
〔水源涵養林造林事業〕
かけがえのない地下水の保全と日本一の水を次世代に継承するため、地下水涵養域にあたる阿蘇山麓の大津町真木地区に広大な水源涵養林の造成を推進。

〔流通情報会館の建設〕
熊本流通センターの中核施設として、中小企業の流通情報の拠点となる流通情報会館を建設。(平成元年4月開館)

〔総合婦人会館・カルチャーセンターの建設〕
婦人の地位向上と婦人活動の活発化を図るための核となり、あわせて豊かな市民文化の創造と発展を目指し音楽、絵画、ダンス等市民の芸術文化活動の拠点となるための総合婦人会館・カルチャーセンターの建設。(平成2年4月開館)

〔熊本のシンボルゾーン建設構想の樹立と推進〕
熊本城周辺(シンボルゾーン)整備のため、シンボルロードなど熊本の顔としての景観形成と、同時に経済・文化活動の拠点施設となるシティーホールや地下駐車場など都市機能の活性化構想の推進。
●シンボルロード
●歩きたくなる歩道
●辛島公園地下駐車場

〔坪井川リバーウォーク構想の樹立と推進〕
新たな都市開発の基軸として、坪井川沿いの坪井橋から春日橋までをリバーウォーク(ウォーターフロント開発)として整備。

水辺遊歩道の設置、遊覧船の運行、野外音楽堂の設営など市民の憩いの場を創設するとともに、全国有数の観光拠点づくりを推進。
〔サンアントニオ市における日本庭園の建設〕
姉妹都市締結記念公園として、サンアントニオ市植物園内に日本庭園を建設。(平成元年五月完成、愛称「熊本園」)

〔記念公園建設構想の推進〕
緑あふれる広い空間で、散歩やスポーツのできる市民広場や彫刻の森など、人と人、人と自然とのふれあいの輪をひろげる記念公園の建設構想を推進。
〔海洋水族館建設構想の推進〕
市民の憩いの場や社会教育の場としてはもちろん、熊本市の新しい観光資源としての特色ある海洋水族館の建設構想を推進。
〔人づくり基金制度の創設〕
21世紀の社会の各分野において指導的役割を果たすべき、国際感覚を備えた創造性豊かな人材を育成するため、各界から寄せられた浄財を基に「熊本市制100周年記念人づくり基金」を設置。



総合婦人会館
カルチャーセンター

流通情報会館落成式



水源涵養林記念植樹祭

記念事業
100th Anniversary
memorial